

イノベーション神奈川 2013



メッセージ

5月の訪米は私にとって
気づきの旅でもあった。
帰国後、私は「ヘル
スクア・ニューヨーク
テイク」¹という言葉を使
うことに決めた。この言葉
こそ超高齢社会を乗り切
る神奈川モデルを作り、
で行けば、財政は遠く

神奈川県知事

黒岩 祐治氏



圏央道が次々に通っている
(茅ヶ崎JCT—寒川北IC間が4月14日に開通)

人口907万人を抱える神奈川県に新たな成長エンジンが備わろうとしている。ライフイノベーションに関わる研究開発と事業化を一気に進める京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、県央部にロボット関連産業の集積を進めるさがみロボット産業特区がいよいよ始動。さがみ縦貫道の順次開通により、産業活動の足腰となる道路網も充実する。改革と経済成長は地方から。これまで各地で言われ続けてきたこの言葉は、神奈川県でこそ息吹を与えられる。



ライフノベーション特区での研究風景
(4月に本格稼働した横浜市立大学の
先端医科学研究センター新研究棟)

最先端技術の産業化を

ヘルスケア・ニューフロンティア

将来に破綻する。すでに過去7年間で医療・介護の負担は2倍になっている。今のままのシステムでは早晚、持ちこたえられなくなるのは明らかだ。

だ。例えば、ベッドの上り下れようとしている。

神奈川県のもう一つの特区となるのが、2月に地域活性化総合特区として国から指定を受けた「さがみロボット産業特区」。相模原市や厚木市など県央部に生活支援や災害救助ロボットを主軸にしたロボット関連産業を集積しようとするもの

ればよいのか。生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）を高め、より高付加価値な産業活動と研究活動の循環を生み出すという点で、ライフイノベーションとロボットの両特区は同じ線上にある。高齢化の進む日本や東アジア、ひいては世界で求められる価値が神奈川発で生み出さ

・研究開発従事者は5万人を超え、東京都を上回る全国1位を誇る。施設整備はもとより、人材というソフト面の蓄積を合わせ事業化まで一気通貫で進めたい時代となりつつある。安全を確保し、どのような機能があ

こうした活動を下支えるのは、神奈川ならではの研究機関の集積。神奈川県内で働く学術集積にロボットという切り口が

崎区殿町の「キングスカイフロント」には、3月に川崎生命科学・環境センター（LISE）がオープン。4月には川崎市高津区にライフイノベーション国際協働センター（GCC）がオープンした。米国の食品医薬品局（FDA）との窓口にもなる同センターは、同特区内の各地区、各機能に横串を通す存在と

進めるのか、神奈川県と川崎市、横浜市が獲得した特区「京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区」だ。大型の施設、機器整備が進む川崎市川環状道路のうち、最も外側を走る圏央道の新神奈川県部分の沿

克服し、個々人の体質や病歴に合った医薬品や体への負担が少ない手術や処置法を普及させる。

こうした活動を特定の域内でつた研究開発に参加する企業や団体の募集をしている。同時に、神奈川県は、特区をさらに実行段階に移すために国に認定申請を5月に行い、6月に計画が認

医療とロボット

再生医療など先端の研究をする人材が集い、アイデアを自由にぶつけ、最先端の機器を自在に扱う。それが最新の開発成果に結びつく。生活習慣病やがんを

現在、これらのテーマに沿って、リハビリやセンサーで健康状態を把握し、異常を検知した場合に家族や救急への連絡をするロボット、災害現場で被災者の救護や状況把握、救護者の安全確保などを行うロボットを想定す

医療とロボット

だ。この難問を解決するために、神奈川は二つのアプローチを始めた。ひとつは「最先端医療と先端技術の追求」。京浜臨海部のライフノーション国際戦略総合特区にさがみロボット産業ある。

もうひとつのアプローチは「未病を治す」。すなわち「食医農同源の思想」に基づく「食の在り方や運動などライフスタイルの改善により、健康回復していき」とするものである。

略の具体策である。我々が目指すのは研究のための研究ではなく、研究の成果をしつかりと産業化し、ビジネスの世界につなげることである。

米国はかつてアポロ計画や、スーパ情報ハイ

「ヘルスケア・ニューフロンティア」であると私は思う。そしてその最大の特徴は、アメリカの後追いではなく、「神奈川発」ということだ。今、神奈川は熱く燃えている。

神奈川県

日本のモノづくりを、今こそ世界へ。

日本発の高品質な電子部品をグローバル市場に迅速に提供する、
新たな開發生産拠点が誕生しました。

TE Connectivityのモノづくりの粋を集約した掛川新工場が稼働を開始しました。
新工場では、自動車産業の生産方式を取り入れた革新的な生産モデルを実現。
開発セクションを統合した一貫した生産体制により、リードタイムの短縮を図ります。
さらに、メガソーラー発電を設置するなど環境配慮も徹底。
グローバルでの真の競争力を得るために、日本でのモノづくりにこだわり、
日本独自の品質と開発技術というアドバンテージを提供していく。
それがグローバル企業として50年以上、日本のモノづくりに関わってきた私たちの使
さあ日本のモノづくりを、今こそ世界へ。



タイコ エレクトロニクス ジャパン合同会社

本社：神奈川県川崎市高津区久本3-5-8 TEL044-844-8111(代)
支店：大阪 06-6533-8200(代) 中部 0565-36-2900(代)
www.te.com/japan/

TE Connectivity, TE Connectivity (logo) and Tyco Electronics are trademarks of TE Connectivity Ltd companies.

EVERY CONNECTION COUNTS

